

# 横芝の碑 (その三十七)

## — 子育ての六地藏 —

旧上堺村北清水に、延命寺とい  
う寺があります。この門を入っ  
てすぐ左側には六体のお地藏様が建  
っていますが、その中の一つのお  
地藏様は、キチンとした詰襟の学  
生服を着ています。襟章やボタン  
もちゃんと着いていますので、横  
芝駅から通学できる範囲の某高校  
の制服であることが確認できま  
す。

延掛けや袖なしを着けているの  
は時折見かけますが、学生服、そ  
れも高校制服を着たお地藏様とな  
りますと、一寸珍しいお姿に思  
われます。近所の人の話では、  
「このお地藏様は、虫封じの子育  
て地藏、延命寺地藏等と呼ばれ、  
太平洋戦争の頃までは、虫封じの  
まじないで名高く、随分遠くから  
も、お詣りやまじないを受けに来  
る人があった、お地藏様が着てい  
る学生服は、大学受験の勉強を続  
けていた息子さんが、受験の日を  
待たずに、逝くなられたのを悲し  
んだ親御さんが、その冥福を祈っ  
てもらいたいと、延命寺の住職さ  
んにお願いで、子供の守り菩薩  
といわれる地藏様に着せたもの」  
だということでした。

そういう近所の人達の話につい

て延命寺の住職戸村静覚師は、  
「延命寺の地藏尊というよりは、  
延命菩薩をお祀りしてある寺と申  
上げた方がよいかもしれません。  
元来、地藏菩薩は、御法身の寿命  
を得て、常住不変にあらせ給うの  
で、これを延命菩薩と称え奉るの  
であります。そして、御一身の菩  
薩ではありますが、これを、天道  
能化預契地藏の他、人道能化放光  
王、修羅能化金剛小童、畜生能化  
金剛悲、餓鬼能化金剛宝、地獄道  
能化金剛願等併せて六体の地藏尊  
に御化身なされて衆生を濟度下さ  
る、といわれています。それぞれ  
のお姿は、お持ちになられる錫杖  
宝珠等や、御身形の構え等によつ  
て異なっておられますが、これを  
六地藏と申上げております。お地  
蔵様の御慈悲は衆生一切に及ぶと  
いわれていますが、特に子供さん  
方の守り本尊として信仰もされ、  
親しまれています。この地藏尊も  
虫封じといひまして、痢の強い子  
供さんの痢を静めるまじないがよ  
くきく、というので、確かに戦前  
には随分遠い所からも見えまし

御利益等につきましては、私から  
申上げるのは遠慮すべきでしょう  
学生服の高校生の方につきましては  
は、何と言っても既に十七・八歳  
になられていたのですから、御家  
族の方の悲しみは察するに余りが  
あります。私はあの地藏様の前を  
通る度に、心の中で念仏を唱えて  
いるのです。」と、そんな風に話  
してくれました。

◎写真はその六地藏で、学生服を  
着ているお姿の下の台座には、  
中央に、奉造立地藏尊、右側には  
当村惣詰衆為現当不也、左側には  
同童男童女正徳甲午十月吉日、と



刻まれています。

正徳年間といひますと、いまN  
HKで放映している元録太平記や  
忠臣蔵で名高い、赤穂浪士が吉良  
邸討入事件後十年位で、儒学者新  
井白石が幕府の儒官として登用さ  
れた頃です。また、延命寺の辺り  
は、横芝町では勿論なかったし、  
上堺村でもなく、屋形村、新堀村  
(現新島)と共に、北清水村と呼  
ばれていた頃のことですから随分  
昔の話です。その頃に、北清水村  
の人々が皆一緒になって、この村  
の男の子と女の子の、すくすくと  
元気に育つことを祈り、また、幼



くして沃失した子供さんの供養を  
も願って建立したのが、この地藏  
様という訳です。其後二百六十年  
余り、喜びと願いをこめた帽子や  
衣服も幾度か着替えられたでしょ  
う。烏や雀に丸い頭を汚されたこ  
ともあったでしょう。石けりの石  
が顔やお体につかかったこともあ  
ったでしょう。それでも、いつも  
ニコニコと立ち続けられたお地藏  
様は、今日も学生服を着けられた  
まま、やはりニコニコと立ってお  
られます。尚、この六地藏は、  
学生服の地藏様が六体に御化身さ  
れる、というのであって、後の五  
体が本文中の戸村静覚師のお話  
に出てくる各六体のお姿ばかりでな  
く中には同じお姿のものもあるこ  
とを申添えます。(地藏尊の意義  
等につきましては、総て戸村静覚  
師に御指導をいただきました。)  
(養護老人ホーム小沢所長寄稿)